

福井大教育

○松尾みどり

大阪市大生活科学

三平和雄

目的 乳癌の術後者の温熱環境変化に対する身体的訴えの中で、肩部および腕部における施術側の非施術側に対する違和感を取り上げ、術後者を対象にアンケート調査を行い、年間を通じて経験した違和感の発生頻度、種類、発生誘因等を明らかにした。また、術後者および健常者の左右の肩部および腕部の皮膚温を測定し、その比較から術後の身体的訴えを生理的に検討した。

方法 《調査》①時期：S 56年度 ②対象：乳癌術後者41名、③実施方法：質問紙法、④調査項目：年代、体格、術後経過年数、違和感の発生頻度、違和感の種類、違和感の発生誘因、違和感に対する処置 《実験》①時期：S 57年7月～8月 ②被験者：術後者および健常者各8名 ③環境： $29 \pm 1.5^{\circ}\text{C}$ 、 $70 \pm 10\% \text{RH}$ ④皮膚温測定部位：肩峰点、上腕後面点、上腕外側面点、上腕前面点、前腕後面点 ⑤姿勢：座位安静

結果 《調査》①違和感の発生頻度は、いつも感じる者26.8%、時々感じる者58.5%、感じない者14.6%であった。その頻度は術後経過年数2年未満の者が高い。体格では、肥満の方が普通より違和感を訴える率が高い。②違和感としては、痛む、運動しにくい、はれる・むくむ、寒い・冷たい、だるい、重い of 順で訴える者が多い。③違和感の中で寒い・冷たい、だるいおよび重い of 主な発生誘因は、寒さ、疲労、悪天候などで、温熱的環境による場合が多かった。《実験》①術後者では、肩峰点、上腕後面点、上腕外側面点、前腕後面点において、施術側の皮膚温が低い傾向がみられ、健常者では有意な皮膚温差は認められなかった。②皮膚温差のある者は、違和感として寒い・冷たいを訴える率が高い。